

次世代へとつなぐ 「クリエイティブ・シティ」を考える

— 二子玉川を舞台として —





二子玉川という街をご存知でしょうか？

二子玉川には、東京という世界でも稀な巨大都市の中にありながら、多摩川や国分寺崖線といった豊かな自然、長年培われてきた生活文化があります。

2010年、この二子玉川を拠点としてクリエイティブ・シティ・コンソーシアムが設立されました。都市の未来像として「クリエイティブ・シティ」に注目し、この街の成長とともにクリエイティブ・シティをつくりあげようと、さまざまな実践を始めています。

この冊子は、二子玉川を舞台にしたクリエイティブ・シティのありようを描く大きなビジョンです。現在、二子玉川では大規模な再開発事業とともに、新しい街づくりが進められています。この事業は2015年にグランドオープンを迎え、周辺地域も含めて、ますます多くの人々が暮らし働く街へと成長していくでしょう。私たちは、そこからさらに先の未来を見据え、新しい都市の在り方を考えてみたいと思います。

クリエイティブ・シティ・コンソーシアム
グランドデザイン2015委員会

未来を見据えて、今、日本にクリエイティブ・シティをつくりたい



日本の社会や経済は大きな混迷の時代、過渡期にあります。問題は山積していますが、目の前だけを見ていると対処法的になりがちです。そこで、20年後に社会の主役になっているはずの子どもたちが、いきいき活躍できるのはどんな舞台なのかを思い描いてみたいと思います。例えば、今5歳の少年NICO君がいるとしましょう。NICO君は20年後に25歳。どんな活躍をしているでしょう。そんな舞台が、「クリエイティブ・シティ」です。

でも、なぜ「都市」なのでしょう。実は21世紀の今、都市は世界の経済や社会を考えるうえでの土台になっているのです。都市化や都市への人口集中は、先進国では20世紀を通じての傾向でした。それでも、都市より農村に住む人の方が多かった。ところが、2010年頃に都市の住民が世界人口の過半数を超え、さらに増え続けています。環境問題や少子高齢化など目に見える現象の背後にある、深い変化の要因が都市化だといえます。都市を舞台に産業構造や社会の構造、私たちのライフスタイルが今大きく変わろうとしているのです。

大きくは工業社会型の都市から、ドロッカーのいう「知識社会」型の都市へと変化していくでしょう。これからの都市のひとつの姿がクリエイティブ・シティなのです。「クリエイティブ」というのも、アーティストやクリエイターが集う、というわけではありません。彼らもその一員ですが、ここでいうのは、さまざまな人々が集まって価値あるビジネスや豊かなコミュニティをつくっていく活動、つまり「創造性」を発揮することを意味しています。

日本はモノをつくるのがうまい国とされてきました。戦後は輸出製造業が成長を引っ張ってきました。しかし、知識社会・経済の時代になり、転換を迫られているのです。NICO君たちがこれからつくるのは人々の心を満たすコトやサービスでしょう。そこにこれまで強みだった技術やモノを埋め込んでいくという、発想の転換が必要になっています。

大量生産のように規模を追求する仕事はBRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国など)や新興国にアウトソーシングされるようになっていきます。日本の役割は、よりよい生活の質を求めて、世界の他の地域の人々にとっても善い(goodな)、独自の製品やサービスを生み出していくことです。健康、安全、環境との共生など、生活をデザインすることです。もちろん、世界の他の地域からのイノベーションを取り入れることも大事です。

こういった次の20年のためにクリエイティブ・シティが必要になります。「創造的労働者」の研究者、リチャード・フロリダは、「才能があふれたクリエイティブな人々が集まると、アイデアは無限

に湧き出し、個人および集団の才能が飛躍的に増大する」(『クリエイティブ都市論』)と述べています。彼らは科学者あるいはエンジニア、建築家あるいはデザイナー、作家、アーティストやミュージシャン、あるいは仕事で創造性を用いる教育、ヘルスケア、法律の専門家など多様です。クリエイティブ・シティは、創造的人材が集まって交流する「場」としての役割を担っているのです。

創造的アイデアやイノベーションはゼロからは生まれません。イノベーションの概念を示したオーストリアの経済学者シュンペーターは、それは新しい結合だといいました。背後には新しい意味の発見やデザインが求められます。創造性が重視される社会では、インターネットで誰もが得られる知識の量ではなく、生きた生活の現場からの洞察や発見、それらを組み合わせるデザインする力を磨くことが大切になります。

NICO君は25歳、どんな活躍をしているでしょう。これからNICO君には、眠っているクリエイティブなポテンシャルを発揮してほしい。世界にも目を向けてほしいと思います。さまざまな人々との交流や協業も必要です。学習は基本ですが、デザイン教育や、リベラルアーツなどの教養にも触れてほしい。クリエイティブ・シティは、街全体が未来のNICO君を育むような「場」として見る必要があります。

「クリエイティブ・シティ」は新しい都市創造の概念です。21世紀の都市のモデルとして、欧米、日本やアジアにおいても関心を集めています。例えば、グッゲンハイム美術館を誘致して再生した、かつては鉄鋼業都市で競争しようとしたスペインのビルバオや、産業向けゲームや水災害の研究に関わるオランダの大学都市、デルフトなどです。ハイテク中心のシリコンバレーでもなく、アーティストが集うヨーロッパの都市でもありません。住む場所、働く場所に文化やアートなどの資産があるとともに、大学や企業の研究所など「知」のセンターがあること、人々が集い交流、協業しやすい場や立地や交通システムが整っていること、そして情報通信技術などのインフラが整備されていること、などがその条件です。

私たちがNICO君のために目指すのは「いきいきとした人間中心経済」をつくり出すことです。それは創造経済ともアート経済ともいいいいでしょう。モノづくりではなく、創造性が経済の流れを生み出すような仕組み、その関係性、つまり市場の生態系(エコシステム)がクリエイティブ・シティを中心に広がっていく。人間中心の顧客価値へのまなざし、サービス型のビジネスモデル、産業・業界・市場の垣根を越えた新しい融合・進化。こういった、都市の在り方を変えていくような試みが始まっているのです。

クリエイティブ・シティ 二子玉川のグランドデザイン

日本の主力産業は今後、高付加価値で知識集約型の創造産業へと移行していくと考えられています。そこには「クリエイティブ」なリソースを欠くことはできません。そのときクリエイティブ・シティという存在が、人材や技術、情報の結節点となり、産業創出やビジネスインキュベーションの機会を提供します。こうした都市の存在は日本の経済的、文化的価値を引き上げるとともに、日本の都市部が抱えている社会課題に対しても、有効な解決の糸口を示すものになるでしょう。

私たちの描く未来の都市は、個人の生活や価値観に根ざしています。暮らし方や働き方は画一的なものではなく、今後さらに多様化していくことでしょう。そこに暮らし働く人々が、それぞれのスタイルに合わせて職住環境を選択できることは、これからの都市にとって重要な要素です。また、都市の中に文化的土壌を育むことが、多様なコミュニティを生み、私たちの暮らしはより安心・安全で豊かなものになります。

二子玉川は東京という大都市の中心から僅かな距離にありながら自然環境に恵まれ、独自のライフスタイルが実現できる稀有な街です。多彩で豊かな生活環境がクリエイティブな人材を育て集積し、新しいビジネスが生まれるきっかけとなります。新しいビジネスは街をさらに活気あるものにしてくれるでしょう。このような創造的プロセスが有機的かつ持続的に起こることが、クリエイティブ・シティの存在意義であり、新しい日本のクリエイティブ・シティをつくりあげることが、私たちの大きな使命ととらえています。

Good Life

ゆとりある暮らしをつくるコミュニティとインフラ

未来型の都市における「良い生活」とはどんなものでしょうか。現代の都市生活にはさまざまな課題がつきものです。人口過密に伴うエネルギー供給や交通インフラの問題、災害や犯罪に対する予防、高齢者介護や社会的孤立など、多くの社会問題が都市生活と密接にあることは明らかです。これからの新しい都市が備える機能やコミュニティは、そうした課題を解決したり、未然に防ぐことも期待されています。同時にストレスの少ない環境を提供することで、暮らしや仕事がより充実し、私たちはゆとりある毎日を過ごせるでしょう。それが「Good Life」というキーワードに込められた、私たちの大きなビジョンなのです。

例えば、ICT (Information and Communication Technology=情報通信技術) は、すでに私たちの生活と切り離せないものとなっていますが、この技術革新によって個人の生活と都市機能がより密接に関わるようになると、地域内でのエネルギーコントロールや、健康や安全に関わる見守りサービスなど、都市生活の利便性や経済性の向上が期待できます。

また、テクノロジーを活用しながらも、人々の直接的なつながりを促す場やプログラムは、未来の都市生活にあっても不可欠なものです。そうして形成されるコミュニティは、地域的、文化的なネットワークへと発展し、都市における「Good Life」の基盤をつくることに重要な役割を果たしていきます。



Diversity

持続可能な都市を支える人と環境の多様性

多様性を許容し促進することが、価値を生む時代になりました。複雑化する社会課題に対しては、多様な立場や職能、知識や技術をもつ人々が関わりながら、創造的な対話を通して新たなオプションをつくっていくことが解決の一步となります。こうした課題解決にあたって、多様性は広い視野で多くの可能性を示してくれますが、重要なのはそれを未来視点で収束させ実行に移すための仕組みをもっていることです。多様な人材が集まりやすい環境、そしてそれを活かすためのノウハウが、社会を変えるイノベーションへとつながっていきます。

多様性の恩恵は人材のそれに限らず、環境という観点からも得られるでしょう。自然と都市が共存している職住環境や、さまざまなバックグラウンドをもった人々との交流は、都市環境として非常に魅力的です。日常の中にある多様性は豊かな感性を育み、創造性をかき立ててくれるものです。しなやかでクリエイティブな発想からは、新しいビジネスのアイデアが生まれるでしょう。未来のクリエイティブ・シティを担う子どもたちにとっても、刺激に満ちたわくわくするような日々を約束してくれるにちがひありません。

二子玉川は豊かな自然環境とともに、都市としての暮らしの環境にも恵まれており、すでに多様性を備えている魅力ある地域です。創造的な刺激やつながりを生み、これからの都市生活を持続的に支えていくために、この多様性を活かす取り組みが始まっています。

Opportunity

アイデアとビジネスをつなげる機会と仕組み

ビジネスが次々に生まれる都市の機能を考えてみましょう。新しいビジネスを生むためには、ユニークなアイデアと発見、そして、それらを実現するための実効性の高い推進力が必要となります。アイデアの創出だけでなく、起業する人と支援する人の交流も欠かせません。志のある人が集えるような「場とコミュニティ」、そして、それをつなげていく「プログラムとコーディネーター」などは、これからの都市が備える機能としてますます重要になるでしょう。

Diversity(=多様性)と相まって、アイデア、情報、リソース、ビジョンなどが多彩な人々の間で交換・共有されることによって、新しい結びつきから価値あるプロジェクトが生まれます。そうしたプロジェクトがある程度進んだときに、都市の中で社会実験を行うことができれば、生活者である住民とともにその有用性を検証することができます。

これからのビジネスには、生活者としての視点や発想が必要といわれています。生活の中に仕事場があることで、二子玉川にはビジネスの種をたくさん発見できるでしょう。また生物多様性に配慮した環境づくりや、生活者視点での再開発が行われており、さまざまな社会実験を受け入れる基盤をもった新しい街から、先進的なビジネスへとつながるきっかけが生まれています。クリエイティブ・シティは、暮らしやすい都市であるだけでなく、新しいビジネスや産業を生み出すことでその真価を発揮していきます。





NEXT WORKSTYLE

企業と個人から見るワークスタイルの未来

外とのつながりを活かす企業

これまでの企業は、規格化された製品を大量生産・販売することで社会を豊かにし、企業そのものも右肩上がりの成長を続けてきました。しかし、今はモノがあふれ、厳しいグローバル競争の中で、新商品・新市場の開発・開拓やビジネスモデルの革新を目指していかなければなりません。工業社会では技術を極めたモノづくりの装置から利益が生み出されましたが、これからは社会に開かれたコト+モノづくりの仕組みから利益が生み出される時代です。装置はマニュアルで管理できますが、仕組みをつくる「人」はマニュアル通りには動きません。知識社会では知識を創造する人のワークスタイルそのものが企業の競争力となります。

コト+モノづくりの仕組みをベースにした働き方は、異なる専門性をもつ人たちが集まってアイデアを出し合い、今までにはない新しい価値をつくって市場に提供していきます。そのためには社員一人ひとりが経営の方向性を理解し、セクショナリズムを越えて協働していくことが求められます。同時に、ライフスタイルの価値観が変わりニーズが多様化していく中で、企業はめまぐるしく変わる市場の変化を俊敏にとらえていかなければなりません。インターネット上のコミュニティやエンドユーザーの声を直接聞くためのアンテナショップなど、顧客と直接つながる企業がヒット商品を生み始めています。企業として常に新

しい商品やサービスを生み出していくために、外とのつながりをどのようにつくりマネジメントしていくかが、重要な成長戦略のひとつとなってきています。

個人のライフスタイルとワークスタイルの融合

環境問題や自然災害などをきっかけに、私たちのライフスタイルに対する価値観も変わってきました。東日本大震災の影響もあり、シェアハウスやコワーキングスペースのニーズが急速に高まっていますが、リーマンショック以降、シェアやつながりを重視する傾向がその背景にあります。これまで自宅で仕事をしていたクリエイターが長屋のようなシェアード・ワークスペースで働くようになり、企業に属する個人が仕事を終えた後にNPOやプロボノで活動する。これまでライフとワークは分断されていましたが、子育て、介護、趣味、自己実現など個人の生活や意志とワークスタイルは不可分だと考える人たちが増えています。企業は今後、優秀な人材を確保し続けるためにも、フレキシブルな働き方の選択肢を用意しなければならないでしょう。

個人の働く価値観そのものも変わってきています。ライフとワークのバランスをとりたい人、それらを一致させたい人、いずれもこれまでのような「雇われて働く」だけでは時代の変化に対してリスクが高いうえに、なにか物足り



なさを感じているようです。コワーキングやソーシャルビジネスの流れも、公共善となるような仕事を仲間と成し遂げたいという、人間本来の欲求に基づくものです。社会課題が山積する今は、生活の中にこそイノベーションのヒントが潜んでいます。例えば、企業人としてどんなにエコを叫んでも、実際の生活の中で価値あるエコでなければ、市場には受け入れられません。個人が生活者として日々感じている疑問や気づきから生まれるアイデアがとても重要なのです。

さらに個人のライフスタイルという視点で欠かせないのが地域との関係です。今、コワーキングスペースが世界中に広がっていますが、地域活動拠点として機能し始めていることもライフとワークの新しい連携を示唆しています。勉強会や読書会、マラソン大会などのイベントを通して地域経済を活性化し、街の防犯や防災にも役立つうえに、個人の興味や関心からコミュニティが育ち新しいビジネスのきっかけが生まれるという一石三鳥以上の効果も見えてきました。

創造的なチームを生み出す オープンコミュニティ

これからは個人と企業とビジネスと地域が新しい関係をもてる時代です。イノベーションの必要条件は、異質な人、情報、アイデア、リソースの新しい組み合わせをつくる

ことであり、オープンコミュニティ=場がこれからのビジネスを支えるプラットフォームになっていくでしょう。個人事業主であっても企業内個人であっても、私たちはさまざまなコミュニティに自主的に参加することで気づきやアイデアを得ることができ、そこから創造的なチームが生まれます。しかし現実には、日本企業の多くが終身雇用の仕組みで成長してきたため、組織の中に人的リソースを囲い込み、産学官の日常的交流も少ないという問題を抱えています。異なる人や情報の新たな結合を生み出すためには、これら過去の枠組みを越える新しい場づくりが必要です。

オープンコミュニティ=場は、日本でも徐々に広がっており、クリエイティブ・シティ・コンソーシアムの活動拠点であるカタリストBAもそのひとつです。ここでは未来のありたい暮らしや働き方から新しいビジネスモデルやサービスを考えるために組織の垣根を越えた対話が行われています。物理的な場所をつくり多様な人たちを集めるだけでなく、アジェンダからテーマやプロジェクトを生み出す仕組みがデザインされています。

このようにカタリストBAが触媒となり、二子玉川では新しいコト+モノづくりの仕組みが生まれていますが、こうしたニーズは日本全国にも広がっています。人と街の豊かな関係が持続的に経済を生み出していくワークスタイルが、次世代のスタンダードになっていくことでしょう。

二子玉川で始まっていることと未来への展望

二子玉川では未来の街をつくるためのプロジェクトが具体的に始まっています。

クリエイティブ・シティ・コンソーシアムがプラットフォームとなり、組織の境界を越えて未来の暮らしや働き方を支える街を実現するためにアイデアやリソースを出し合い、さまざまな社会実験に取り組んでいます。オープンイノベーションの考え方に基づき、イベントやワークショップなどは誰でも参加することが可能です。

ここに紹介している活動はほんの一部ですが、クリエイティブ・シティとしての二子玉川の未来像が徐々に見え始めてきました。新しい二子玉川をつくるために、今後も継続的に多くの人々を巻き込みながら発展させていきたいと思えます。

知の交差点「カタリストBA」

2011年4月、二子玉川ライズオフィス8階に、次世代ワークスペースとしてカタリストBAをオープンしました。「知の交差点＝オープンイノベーションの場」をコンセプトに、企業、大学、行政、住民などのステークホルダーが集まり、さまざまな対話を通してプロジェクトを生み出しています。人と情報のコネクションポイント、新しい価値を生み出すナレッジスタジオ、価値を具現化するインキュベーターという3つの軸で空間と仕組みがデザインされているのが特徴です。クリエイティブな機能空間が触媒(=カタリスト)となって、組織の垣根を越えてさまざまなアイデアやリソースをつなげていきます。



カタリストBAのスタジオスペースでは多様な人々の意見が交換され、アイデアが生まれます。

*施設内には、2012年8月より「知的照明システム」を導入。次世代のオフィス環境における照明の実証実験が始まっています。

子ども向け創作ワークショップ「カタリストキッズ」

未来を担う子どもたちの創造性と表現力を育むワークショップを、NPO法人CANVASとともに運営しています。アーティストやさまざまな分野のプロフェッショナルによって、独自のプログラムを開発しながら新しい体験学習の場を提供しています。また、学びに関心のある企業や団体とのコラボレーションによるワークショップも随時行っており、次世代を担う人材に必要な学習環境の研究も行っています。

*NPO法人CANVASは、クリエイティブ・シティ・コンソーシアムの後援団体です。



身の回りのものから映像作品をつくる「これなあにムービー」ワークショップ風景

コラボレーション・オフィス「co-lab二子玉川」

クリエイティブな個人が集う次世代ワークスペースの実験として、co-lab二子玉川がカタリストBAに併設されています。2003年からスタートしたco-labは、インディペンデントに活動するデザイナーや建築家、アーティストなど異業種のクリエイターのためのシェアード・コラボレーション・スタジオです。一般的なシェアオフィスのようにスペースを分割して提供するのではなく、同じ場所をフラットにシェアし、交流やコラボレーションが積極的に行われるような空間を提供しています。

co-lab二子玉川に集う企業、クリエイター、ファシリテーターが、それぞれの技術、アイデア、感性を掛け合わせた集合知による新しいワークスタイルを実現していきます。



co-lab二子玉川は、開放的なブースとデスクが隣り合い、コラボレーションが生まれています。

最新の位置情報取得技術とビジネスへの挑戦

2011年11月末から2012年3月末まで、二子玉川の街全体を使って、位置情報サービスの実証実験を実施しました。GPS等を使った位置情報を活用することで、スマートフォンや携帯電話に対して、有益な情報やクーポンを配信し、街のアクティビティを多くの人々が楽しむためのサービスです。

また二子玉川ライズには、屋内外を問わないシームレスな位置情報取得を実現する日本発の新技术IMES(Indoor Messaging System=屋内通信システム)が常設され、アプリケーション開発などの実証実験が行われています。今後、ICTを活用した二子玉川発の新ビジネスとして、生活に役立つより良いサービスへと発展させていきます。

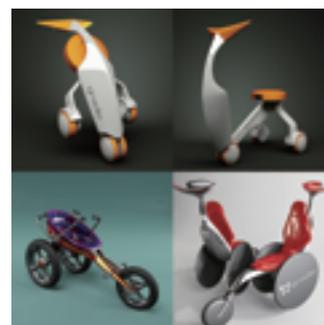


スマートフォンでニコトコアプリケーションを立ち上げる。

*「ニコトコ」プロジェクトは、平成23年度経済産業省産業技術実用化開発事業費補助金(次世代高信頼・省エネ型IT基盤技術開発・実証事業)＜G空間プロジェクト分野＞の採択を受けて実施されたものです。

新たな都市の移動「スマートモビリティ」

都市の中での移動手段として、個人向けモビリティの新たな利用価値やデザインなどが注目されています。二子玉川には幹線道路をはさんだ東西の両地区、また多摩川河川敷や公園などがあります。広範囲にわたり街の回遊性を高め、移動そのものを楽しめるモビリティサービスは今後大いに期待されることでしょう。また単に移動だけではなく、モビリティを利用した新たなコミュニケーションやライフスタイルのデザインもこれからの街には欠かせない要素です。実際の街を使ったモビリティの実証実験を目指し、新たな動きが二子玉川から生まれようとしています。



未来の新しいモビリティ・デザイン
©株式会社グラティエ

ICTを利用した健康生活サポート

病気を予防するだけでなく、いつまでも若々しく健やかでありたいという人が増えています。そこで、ICTを活用した日々の健康データを簡単に記録・閲覧する仕組みを利用して、楽しみながら快適に健康管理をするサービスの開発が始まっています。2012年11月からこのサービスのモニター実験が行われ、将来的にはウェブサイトを利用したデータ管理に留まらず、健康セミナーなどのリアルなイベントを組み合わせるなど、複合的なコンテンツ提供により、健康で豊かなライフスタイルを提案していきます。



健康ポータルサイト「+U」のトップページ
(2013年3月までのモニター実験用)

2015年働く街 としての二子玉川

二子玉川東地区は現在、大規模な開発の途上にあります。そこには地上30階建てのタワーが建設され、オフィスやホテル、シネマコンプレックスやスタジオ、フィットネスクラブ等、充実した施設が誕生します。また多摩川や国分寺崖線の自然を背景として活かした広大な屋上緑化には、生物多様性あふれるエコミューゼ(地域住民とともに環境との関わりをつくっていく自然博物館)が計画されています。

2015年の完成を予定しており、これまで以上に「働く」街としての機能が整備され、多くの企業と働く人がこの地域にやってくることになるでしょう。住まう街から働く街としても注目を集める二子玉川は、クリエイティブ・シティとして常に進化し続けています。



クリエイティブ・シティ実現のためのアイデア

クリエイティブ・シティ・コンソーシアムは、これまでに多様な人々を交えた対話やワークショップを開催してきました。産学官の垣根を越えて生活者の目線で、未来の二子玉川をこんな街にしたいという思いや、そのために取り組んでみたいことを「クリエイティブ・シティ二子玉川」のアイデアとして蓄積しています。

今後、コンソーシアムではさらに有識者や地域住民の方々との対話を広げていくとともに、アイデアを具体化していく活動も行っていきます。未来の魅力ある「クリエイティブ・シティ二子玉川」をともに描き、新しいライフスタイルをデザインしていきたいと考えています。未来をつくる対話に、あなたも参加してみませんか？



〈クリエイティブ・シティ・コンソーシアム〉

二子玉川をモデル地区として、新しい働き方・暮らし方を発信し、持続的に成長する街＝クリエイティブ・シティをつくりたいとの思いを共有する6法人が発起人となり、2010年8月に設立されました。2012年10月1日現在、法人会員82社、学会会員16名・研究会員2名・個人会員6名、後援団体17団体が参画して、クリエイティブ・シティの実現に向けて、そのグランドデザインの検討・発信、必要なインフラの研究・実験・実証等を行っています。

E-mail : info@creative-city.jp

URL : <http://www.creative-city.jp/>

活動拠点 : カタリストBA [東京都世田谷区玉川2-21-1 二子玉川ライズオフィス8F]

クリエイティブ・シティ・コンソーシアム グランドデザイン2015委員会メンバー

コクヨ株式会社 齋藤敦子

コクヨファニチャー株式会社 竹本佳嗣

東京急行電鉄株式会社 東浦亮典 白鳥奈緒美 岡田朋子 松浦陽子

株式会社三菱総合研究所 福田次郎

株式会社日建設計 朝田志郎 内原英理子

株式会社博報堂 深谷信介 海谷英明

多摩大学 大学院教授 紺野登(特別寄稿)

クリエイティブ・シティ・コンソーシアム 副会長/一般社団法人 俯瞰工学研究所代表 松島克守(監修)



Creative City
Futakotamagawa

Publish: Creative City Consortium

Design: bee2graphic

Illustration: Hana Akiyama

